

place of the heart

—カワラナイウター—

●準備

プレイヤー数推定二人

どちらも高校二年生男子キャラクターとする。

戦闘有り。

●用意する書籍

- ・クトゥルフ神話 TRPG (必須)
- ・クトゥルフ 2010 or 2015 (推奨)

●あらすじ

普通の男子高校生である彼らの前に現れた不思議な転校生は、あることを告げる。人類はあと数週間で滅亡し、それを救えるのは君たちだけだと……
彼らは人類を救うべく、人の心をのぞき見る力をもって“大切な人たち”の中から“侵略者”探しを開始するのだった。

K Pへ—————

- ・このシナリオはNPCが多く、かつPCと深く関わるため、キャラクターロストは最後の戦闘以外で出さないようにする必要があります。
- ・また、見せかけのハッピーエンドはありますが、基本的にバッドエンドで話が終わります。終始非常に重い話になるので、気になる人がいる場合はプレイを推奨できません。

●NPC

- ・ヒロイン

九十九 恵 (つくも めぐみ)

普通の恋する女子高校生。主人公 (P 1) に隠れて惚れており、いつも彼について回る。性格は正統派、時々茶目っ気がある。アパートに一人暮らし。

実は事故で孤児となっており施設育ちである、そのため服などが古いお下がりや汚い身なりになってしまい小学生のころ虐められていた。そこを主人公に助けられた過去がある。ソプラノの非常に美しい声色を持っており、気分が落ち込んだときや誰かが落ち込んでいるときに歌を歌うことがある。

「あ……緊張していらっしやるみたいですね……額……大丈夫でしょうか？」

(K P 情報) ———

本編少し前に既にさらわれており、脳幹 (デウスエクスマキナ) にされている。

本編に登場するのは、記憶と人格を受け継いだグレイ体 (ミ=ゴの人造人間) である。

歌が上手なのは小学生の頃、P 1に褒められたから。褒められるという経験は、このときが生まれて初めてのものだった。彼女は歌が大好きになり、アイデンティティと言えるほどになっている。

()内はグレイ体覚醒能力 (KP のみの情報)

STR8(20) CON10 DEX8(25) APP16 POW18 SIZ11 INT15 SAN5

技能：応急手当 85 % 精神分析(歌) 85% 目星 50% 聞き耳 50% コンピュータ
50%

以下、グレイ体能力

キック 99 % パンチ 99 % 回避 99 % 隠れる 99 %

隠す 99 % 跳躍 99 %

蹴り：3 d 6+10

耐久：10

・転校生

保志野 芽衣 (ほしの めい)

転校生である。しかしてその実態は“正義の天才科学者 (自称)”だという。

人類が今危機に直面していることを主人公に伝え、更に“心を見る装置”を進呈し事件解決の手伝いもしてくれる。

性格は少し間抜けな頑張り屋。

「つまり！ 貴方達に！ この世界を救うヒーローをやってほしいというわけですよ！」
(振り上げたこぶしをテーブルにぶつける)「あいた!!」

(KP 情報) ——

人間の精神エネルギーに目をつけたミ=ゴの研究者である。

犠牲をいとわず人類を形だけは助けようとしている。利害でしか物事を判断できない普通の宇宙人。人間は自分の目的のために必要だから大好き、だから助ける。彼女の行動理念は非常に合理的であり見方によっては無情である。

彼女の身体は恵の本当の身体を整形したもの。

～保志野芽衣の本心～

保志野芽衣は、人類だけが有する意識 (クオリア) というものに莫大なエネルギーが秘められていることに気づき、魅了された。

この意識を自在に使用するべく、彼女は人類を生かし続け共存する道を歩みたいと考えた。彼女は本心から人類とその意識を愛している。

STR8 CON10 DEX8 APP15 POW18 SIZ8 INT22 SAN0

技能：応急手当 85 % コンピュータ 99% 電気修理 99% 電子工学 99%
機械修理 99%

耐久：9

・ヒロインその2

猪口 千代子 (いのぐち ちよこ)

主人公2 (P2) の幼馴染みで、主人公チームのムードメーカー。

いつも明るく元気な女子でP2のことをいつも愛称で呼ぶ。

愛称は自由に決めてください。ここでは仮に「～っち」で統一しています。

「P2っち!! なんだからすごい子がやってきたよ!」

(KP情報) ——

自覚のないショゴスである。“古のもの”に無意識に情報を伝え続けている。

猪口千代子とその家族は一か月前まで人間として生存していたが、ショゴスに殺され吸収される。その後、ショゴスはそのとき奪った記憶を完全に自分のものとして生活している。

STR10 CON11 DEX12 APP13 POW10 SIZ11 INT12 SAN50

耐久 : 11

・クラスの担任 (女)

今井川 南 (いまいがわ みなみ)

新任の先生、担当教科は国語。あわあわと慌てた喋りをする先生。

生徒大好き、勉強大好き、学校大好き、だけれどどこか空回りという何かすごい人。

(KP情報) ——

既に1866回恵にリープされている。記憶によれば、ようやく大好きな生徒の名前を全て覚えたところで彼女の意識は上書きされた。

STR9 CON11 DEX12 APP13 POW10 SIZ12 INT15

・クラスメイト (男)

大谷 翔太 (おおたに しょうた)

気のいい普通の男子高校生、いわゆるいい奴。実は千穂に片思いをしている。

PC達とは良くつるむ仲で、電話番号も知っている。

(KP情報) ——

ショゴスとして男子が疑われた場合、彼を最初に調べるように仕向ける。

男性なので、恵のリープ対象にはならない。

中間ボス。

STR11 CON11 DEX13 APP12 POW10 SIZ12 INT12

耐久 : 12

・クラスメイト 2 (女)

池上 千穂 (いけがみ ちほ)

ぼわぼわとした喋りをする女子高生。一緒にいると眠くなってくる。

(KP 情報) ——

千代子 (ショゴス) との関係が浅く、まだ一度もリープ対象には選ばれていない。

しかし、作中で関わるが為にリープされてしまう。

その後、高い確率で死亡する。

STR8 CON9 DEX7 APP12 POW10 SIZ10 INT9

・クラスメイト 3 (女)

三好 詩織 (みよし しおり)

眼鏡の文学少女。クラスでは目立たないが実はすこぶるオカルトマニア。

学校内にひっそりと存在する謎多しオカルト部の隠れ部長。

スマホを持っていない。

(KP 情報) ——

実は P 1 に恋しているが恵に気づいて身を引いている。

STR9 CON11 DEX9 APP14 POW13 SIZ11 INT16

・クラスメイト 4 (女)

大里 友理奈 (おおさと ゆりな)

新聞部部長代理。いままであまたのネタ (弱み) を仕入れており学校内では一部に恐れられている。因みに部長は海外にいる。

STR10 CON10 DEX15 APP12 POW10 SIZ10 INT16

●導入

探索者が住む町「名桜町」(なざくらちょう)は、人口 7000 人ほどの山に囲まれたのどかな半田舎である。町中央の駅あたりには多少高い建物があるが外に向かうにつれ畑と田んぼが多くなる、そんな事件など何も起きないようなのどかな場所だった。

しかし、探索者が通う「名桜高校」の 2 年 A 組は最近とある事件があった。クラスのほとんどの女子が購買で買った食べ物で食中毒になったのだ。被害者が事を荒立てないようにしたので事件は程なく示談に終わった……この事件が起きたのがおよそ一か月前のこと、それからは平和な毎日であった。時期は試験がようやく終わりそろそろ夏休みに入るころだ、担任の“今井川 南”先生の一声から物語は始まる。

[イラスト<今井川南>開示](#)

「転校生を紹介します！ 入ってきて～」

恐らく緊張のあまり引き戸に手を掛け損なって扉が開かないまま教室に入ろうとしたのだろう、まだ顔も見ない転校生は扉に頭を盛大にぶつけた。

「ほ……保志野 芽衣と申します！ 不つつか者ですが！ よろしくお願ひします!!」

[イラスト<保志野芽依>開示](#)

緊張で頬を赤くし先ほどぶつけたからか額も赤くした転校生が、教壇の演台後ろでクラスメイトに向け深くお辞儀をした為、また盛大に頭をぶつけた。

「あ……緊張していらっしゃるみたいですね……額……大丈夫でしょうか？」

P 1 の隣に座っている少女が静かに P 1 に語り掛ける、彼女の名前は“九十九 恵”、P 1 の小学校来の友人である。軽く口を押さえ、心配そうに転校生と P 1 を交互に見ている。

[イラスト<九十九里>開示](#)

「P 2 っち！ P 2 っち！ なんだかすごい子がやってきたよ！」

P2 からすぐ後ろの席、ちょっとウザい幼馴染みがくいくいと袖を引っ張りながら、P 2 にしゃべりかけてくる。彼女の名前は“猪口 千代子”、P 2 の幼稚園からの腐れ縁である。

[イラスト<猪口千代子>開示](#)

以下ロールプレイタイム

(KP) 話しても良いこと――

- ・それぞれのヒロインとの慣れ染めを回想風に語る。
- ・P 1、P 2、恵、千代子は良くつるんでいる友人である。

一通り話し終えたら、放課後へ

●放課後

「貴方のお名前を教えて貰ってもよろしいでしょうか!!」

すぐにクラスに打ち解けて、女子とワイワイ話をしていた転校生“保志野 芽衣”が不意にP 1に駆け寄ってきて、そんなことを言ってきた。

P 1が自己紹介をすると

「……やはり貴方でしたか！ ……この後、二人きりで会えませんか？ ///

と、モジモジしながら二人だけで会いたいと彼女は進言する。

この会話を実は聞いていた恵が、凍っている。

・放課後の屋上にて

そこでP 1は芽衣と待ち合わせすることになる。

P 1が約束通り行くようなら、恵がこっそり跡をつけている。(半泣き状態で)

夕日が差し込み伸びる影の中、神秘的な状況で転校生がP 1に対して最初に放つ一言は、実に意外なものであった。

「……P 1さん……世界を……救ってください」

P 1が唾然としていると、同じく意表を突かれたのか隠れて聞いていたP 2、千代子、恵が屋上の扉後ろからずっこけてくる。

「あっ……いたんですか皆さん……まあいっか！」

「ところでどうです？ 答えは？」

→わけが分からないから、詳しく話を聞くため場所を近くの喫茶店に変えて経緯を話すことになる。

(KP情報) _____

以降、ほとんど芽衣の説明シーンになってしまうが、折を見て他のNPCにも喋らせるようにする。(芽衣に質問などをする)

また、**探索者が行うであろうロールプレイの予想は”P :”が最初についたものである。**

・喫茶店でプレイヤーに開示する情報

高次元量子コンピュータのこと、一か月前に人類は滅亡するはずだったこと、主人公(P 1)は特異点であること

●現在、駅前の喫茶店

芽衣が話を始める。

「そうですね……どこから話したらいいか……まず、私は一応天才なんです」

一同「??？」

「で、高次元量子コンピュータを作ってみたんです！ ……高次元量子コンピュータというのはですね……えー……つまり、未来とか見れちゃうすごい高スペPCですね！」

一同「????？」

「……で、未来を見てみた結果……人類が滅亡していたんです！」

一同「??????？」

「ていうか、今現時点でも人類は滅亡しておかしくない状況だったんですが……」

「なぜか、滅びる予定から一か月間も人類は平和に生き延びていまして……。

……そして、その要因はP1さん……貴方にあるのです！」

「P1さん……貴方はこの先の未来の特異点……貴方次第で、人類の存亡が決まるんです！」

「つまり！ 貴方達に！ この世界を救うヒーローをやってほしいというわけですよ！」

(振り上げたこぶしをテーブルにぶつける)「あいた!!」

一同「??????????？」

P：つまりどういうこと？ と疑問を表す。

「うう……いた～……ま、まだ信じられませんか？ ……そうですね……じゃあ、私の家に来てください！ 論より証拠です！」

一通り話し終えたら、不思議な転校生“保志野 芽衣”の自宅へ

●不思議な転校生“保志野 芽衣”の自宅

彼女の家は街より多少郊外に位置した辺りなところにポツンと建っている一軒家だった。玄関、廊下、二階への階段……ここまでは普通の家だったのだが、ここから先は……彼女がまさに天才のような何かであることを裏付けるものがあった。

部屋一つを丸々埋め尽くすほどの、大型機械……彼女曰く“高次元量子コンピュータ”がそこにあったからだ。

「……これが“高次元型タキオン量子コンピュータ”……名付けてデウス・エクス・マキナです」

「さて……そうですね……皆さんがここ一週間で食べたご飯でも……全部当てれば信じていただけますかね？」

機械の前の空間に写されている電子パネルのようなものを動かしながら、彼女“芽衣”はそう言った。

(KP 情報) ——

しっかり当てます。他の質問も（物語に支障ないものなら）全て当てることができます。

P：未来に何が起こるのか、彼女に問う。

「宇宙人…… Elder Thing (エルダーシング)、または Old Ones (オールドワズ) ……日本語にして……“古のもの”の襲来です。

……今より 10 億年ほど前に宇宙より現れ地球上を支配した。“旧支配者”古のもの……。

彼らは他の知的生命体に支配戦争で敗北し絶滅したはずでした……しかし、それは地球への先遣隊に過ぎなかったのです。

満を持して彼らは再びやってきました……現地球支配者“人類”を排除し取って代わる為に……」

「……と、今より一か月前にそうになってしまう筈だったんです……しかし、未来は変わった……貴方がいたからです！この事件の大きな特異点である P 1 さんがいたから、奇跡的に人類は生き延びています！そして、このまま人類の存亡をかけて戦うためには、P 1 さんを味方につけて戦わなければならないという結論が出たんです！」

「……さて、どうでしょうか？ 英雄に……なっただけですか？」

→OKと言わなければ話は終了しゲームオーバーです。(人類滅亡 END)

——OK返答の後伝えてよい情報——

- ・保志野 芽衣はこの事実を受けて、わざわざ名桜高校に転校してきた
 - ・スパイの存在と、そいつが現在潜んでいる場所 (名桜高校 3-A)
-

「ありがとうございます!! 皆さん! 一緒に人類を救いましょう!!」

「さて、具体的に何をしてもらおうかという話ですが……実は、奴らを撃退するための対宇宙人兵器はもうできているんです!」

「後は、彼らの本隊がどこに潜んでいるかということなのですが……」

「それがわからない!! ……というわけで、皆さんには彼らの居場所を突き止めていただきたいのです!」

P : どうすればいいんだ?

「実は……ある程度調べはついているのです。……それである……ここから先は、少し辛い話になるかもしれません……いいですか?」

「実は、“古のもの”にはスパイがいるのです。その名もショゴス……不定形でどのようなものにも化けることができる……怪物です。そのスパイが現在潜入している所があります……それは、貴方達のクラス……名桜高校2年A組なんです!」

「場所までは突き止めたのです……しかし、誰なのかがわからない……!! そこで、貴方達に誰がスパイなのかを探してほしいのです……」

「そいつを見つけることができれば……そいつが送っている電波を逆探知して、奴らの場所を知ることができるはずです!」

「……すみません……言うのが遅れまして……クラスメイト……つまり仲間を疑って探すようなことをあなた方には頼んでいます。本当にこのお願いを聞いていただけますか?」

P : そのショゴスを捕まえたとして、その後そいつはどうなるの?

「んー……はっきり言うとわかりません。というのはですね、そのショゴス次第ということにして……。説得で改心するかもしれませんし……しないかもしれません。

もし……しなかった場合は……」

→ (KP 情報) ——

ここでは千代子が積極的に「私が説得してみせるよ! 大切な友達だからね!」と言う。

P : お願いを受けることにする

「ありがとう……ございます……。ふう……少ししんみりしちゃったでしょうか……ですが、狼狽している時間はあまりないのです。……これから P1 さん……特異点である貴方にしか扱えない特別な機械を渡します!!」

彼女はぐいと自分の袖を引くと、そこにはシンプルな腕時計がつけられていた。しかし、その腕時計は時を刻んでおらず 3 : 00 で固定されている。その時計を外すと、そのまま P1 に手渡した。

「これです……これは、いわゆる“読心装置”です!」

「特異点である P1 さんは、現在非常にこの量子コンピュータから受ける影響が強いので

す！」

「それを利用して……人の心を読めるようにしたのが、この機械です！」

「名付けて“丸見え君一号”!! ……これを使って、ショゴスを探し当ててくれ！」

「……なお、注意事項がある！ この機械ですが、今回の事件でスパイではないとコンピューターが確定させた人物は、心が読めなくなります！」

※現時点で心を読めるのは、P2と千代子のみ

以下、千代子が現在考えていること——

- ・大変なことになっちゃったけど、P2もP1も恵もいるし……なんとかなるよね！
- ・ショゴスを説得できるだろうか……いや、絶対説得しなきゃ!! 友達なんだから!!
- ・友達を疑うのはなんかヤダなあ……
- ・ちょっとおなか減ったな……

「……以上で、説明は全て終わりだ」

「もし、何かあればすぐに連絡しあえるように電話番号を交換しよう！」

「では……作戦名“侵略者どもを一網打尽”……開始です!!」

しかし、今日は夜遅いので明日学校で……ということになる。

・不安な帰り道

いつもは明るすぎるほどに明るい千代子が一言も喋らない、それほどに衝撃を受けたのだろう。当然ともいえる、友達が自分を、皆を騙して殺そうとしているかもしれないということなのだから。

郊外の外れで夜ということもあり、辺りは一層静まって感じる。

そのときだった、恵がゆっくりと息を吸う。

これから起こることは、ここにいるメンバーなら分かるだろう。

彼女は時々歌を歌う。誰か若しくは自分が落ち込んでいたり、うまくいかなかったりしたとき自然に歌ってしまうのだという。理由はあまり覚えていないらしい。しかし、その歌声は聴き入るほどに美しいソプラノである。

→この歌を聞くと一日に一回だけSAN値が1d2回復する。

「根拠はありませんが……」

歌い終わった恵が続けて呟く。

「本当に悪い人なんて……いないと思うんです。……きっと何とかありますよ！」

千代子が言う。

「……久々に聞いたね……メグミンの歌も……」

「そうだよ……なんとか説得して分かってもらえれば元通りなんかもんね！
……大丈夫！」

恵の歌で落ち着いたのか、千代子が調子を取り戻す。

「明日から頑張ろうね！」

●二日目、作戦開始!

テストも終わり、そろそろ夏休みということもあってクラスはどこかのんびり気分だが、探索者たちはそうなっちはいられなかった。今日、何と芽衣は休んでいる。理由はメールに送られてきた。

「肝腎なショゴスを拘束するための武器を作り忘れていました!! いま!! 作っています!! 申し訳!! 皆さんだけでショゴスを探す場合はあまり深追いしないように気を!! ショゴスは非常に強いので……」

・学校にて

(KP情報) _____

どのような作戦でショゴスであるか聞き出すかは、ある程度PCに考えさせることにする。

以下一応NPCの意見

千代子「直接聞いちゃえばいいじゃん! すぐにわかるよ!!」

恵「駄目だよ! 芽衣さんが言ってたでしょ……ショゴスはすごく強いって……暴れられでもしたら……」

千代子「あたしがぶったいてわからせてやるよ!!」

恵「やめてね……わかるよね?」

千代子「ア……ハイ」

恵「……とりあえず……スパイではない、と確定させませんか? ……考えていることがわからなければ、コンピュータが絶対に違いと判断したということですよね……?」

○恵の作戦

授業中(クラスメイト全員が揃っている状態)に心を読んでみて、読むことができたなら容疑者である。

この作戦でいく場合、とりあえず以下がわかる。

- ・男子の考えは全員わかる。(つまり全員にショゴスの可能性がある)
- ・女子はほとんどが容疑から外れることになる。

(KP情報) _____

クラスメイトに担任も含まれることを探索者が気づかないようにする。

それでも探索者が担任(今井川)を調べようとした場合は、今日は彼女の授業は無いのですので調べられないことを伝える。

それでもHRなどで調べた場合、**彼女の考えは読めない**ことが分かる。

女子の容疑者は以下

池上 千穂 (いけがみ ちほ)

ぼわぼわとした喋りをする女子高生。一緒にいると眠くなってくる。

何を考えていたか：「あー……いいお天気だなー……」

(K P 情報) これから告白を受ける。

三好 詩織 (みよし しおり)

あまり目立たない、いつもカバーを裏返した本を読んでいる。メガネ女子。

何を考えていたか：「……あーこのパターンか……悪くないわね……」

(どうやら授業中に隠れてホラー小説を読んでいる模様)

(K P 情報) 実はオカルトマニア。

大里 友理奈 (おおさと ゆりな)

新聞部部長代理。ちょっと相手を煽るような敬語を駆使する学校の新聞記者。スクープは見逃さない。

何を考えていたか：「……何か、見られているような気がしますね……最近おかしなことばかり起きます。……今日こそは逃がしませんよ……」

(K P 情報) 他生徒 (ループ犠牲者) の怪しい動きに気づいている。

P : 男子が怪しい……と考え、男子を調べることにする。

(K P 情報) _____

P C が男子生徒を疑って、調べようとするなら “大谷 翔太” を優先し調べさせるように誘導する。

翔太以外の全ての男子は当たり障りのないことを考えている。(授業のことなど)

大谷 翔太 (おおたに しょうた)

誰にでも気さくなお調子者。運動、勉強、容姿ともに中くらい。

P C 達とはよく遊びに行ったりもする仲。

何を考えていたか：「……どうする……今日か……？ 今日置いとくか……？ 昼休みがいだらうか……？」

(K P 情報) 彼は昼休みに千穂の下駄箱へラブレターを入れる。

内容は、“好きです。返事を放課後に屋上で待っています。” といったようなもの

●ファースト・ディテクティブ!

・読心後に怪しい人物に探りを入れてみることにする。

(K P 情報) _____

探索可能人物以外は授業後直ぐに席を外してしまうため、探りを入れることができない。

第一探索時間：昼休み

詮索可能人物：池上千穂 三好詩織

→詮索する人物のストーリー（下記）へ

第二探索時間：放課後

詮索可能人物：池上千穂 三好詩織（図書室） （大谷翔也は屋上で待っている）

→詮索する人物のストーリー（下記）へ

●池上 千穂ストーリー

・第一探索 教室

彼女はいつも眠そうだ……教室の後ろの窓際席で、日なたを感じながらあくびをしている……。

「ん～？ P1くん～？ どうしたの～？ 一緒にお昼寝……する～？」

[イラスト<池上千穂>開示](#)

彼女にショゴスまたはスパイのことを直接的あるいは間接的に話しても、特に反応は無い。彼女は割と何も考えておらず、お菓子と昼寝で頭の中が埋まっている。

(K P 情報) _____

→彼女は**放課後の詩織に遭遇した後**に変化が現れる。それまでは情報は特にないので他のキャラクターを調べることを推奨する。

・第二探索 放課後 “千穂の返事”

普段とろんとした彼女だが、なんだかちょっと慌ただしい……慌て方も何かおかしい……。授業の終わった教室内を阿波踊りのようなことをしながらグルグルグルグルと徘徊している。心を覗くとわかるが彼女はなんと自分宛でのラブレターを下駄箱で見つけており、返事はまだしていない。

→この話が分かると、女子二人が食いつく。

「えええええ!! だ……誰? 誰? ……キャ————//」

と三人揃ってやかましい。男子(PC)は教室内から一時追い出される。
→PCが肯定的な意見を言いそうならば、教室内で恋バナに興じることが可能。
詩織は特に興味なさそう。

その後千穂は説得されて、屋上で待つ“大谷 翔太”の元へ行く。

[イラスト<大谷翔太>開示](#)

ヒロイン二人は隠れて成り行きを見届けるつもりのようなようだ……。

(KP情報) _____

探索者達も一緒に屋上に向かうことが推奨されるが、無理やりに行く必要はない。
行かなかった場合は、適当な場所で友理奈から声をかけてくる→友理奈ストーリーへ

隠れて見ていると、翔太が体全体で喜びを表現しているのが見え、どうやら恋愛は成ったことがわかる。

女子二名は「隠れて隠れて」とPC達を押して、カップルがここから去るのを隠れて見届けようとする。

→千穂や翔太から話を聞きたいとPCが言っても、女子二名が「ここは二人だけにしておけよう」とちょっと制止する。

→KPがロールプレイできるなら、二人の前のでてちょっと雑談してもかまわない。

その後カップルはそのまま一緒に帰ってしまう。

→友理奈ストーリーへ

●三好 詩織ストーリー

クラスで眼鏡を思い浮かべたら、まず彼女が挙がることだろう。おとなしい直球文学少女の詩織は……実は何かの部活に入っているらしい。

[イラスト<三好詩織>開示](#)

→時間帯が放課後なら、“三好のような文学少女なら放課後は図書館にいるだろう”と付け足す。

・第一 教室・第二 図書室 イベント内容は同一

彼女は授業以外ではずっと本を読んでいる。地味で眼鏡な女の子だ……

彼女を疑ってかかると、逆に疑われることになる。

彼女はPC達がやっていた動きを実は見ている、その行動にオカルト的な何かを敏感に感

じ取っていたのだ。

彼女に言い寄ると、逆に何をしているのかランランとした目で問い詰められてしまう。心を読むと彼女にやましい考えは無く、単純に好奇心で聞いてきていることがわかる。

(K P 情報) _____

つまりスパイではないのではないかと探索者に考えさせ、彼女に真相を話すように促す。その際に、「その腕時計……初めてみるわ」などと詩織に言わせ読心装置についても話させるようにする。

内容を話す場合は下記へ。

「……なんだかすごい話ね……面白そう……」

身を乗り出して話を聞いていた詩織は続けて提案する。

「私も協力してあげるわ……人類の危機……なんでしょう？」

いつも半眼で読書ばかりしている彼女が、いままでにないくらい楽しそうである。

「とりあえず……今日は部活もないし……貴方達についてくわ……」

このイベント後は、放課後に彼女がしばらくついて回る。

※彼女はスマホを持っていない

●大里 友理奈ストーリー

一年と半年間ずっと一緒にクラスメイトなのに堅っ苦しい敬語を使う。しかし、その割には随分と馴れ馴れしい接し方をしてくる……、そんな彼女の名は……“大里 友理奈”。新聞部の部長代理である彼女は、いままで数多のスクープを拾ってきたのだ。

[イラスト<大里友理奈>開示](#)

(K P 情報) _____

彼女は授業の合間も、放課後の前半（P Cが千穂と詩織に出会うまで）も何処かに姿を眩ませており出会うことができない。

上記の二人に会うことができれば、“恋愛成就” イベント後に遭遇できる。

・イベント演出

カップル成立の瞬間を見てしまった女子二名のテンションは上りに上がっているようだ。

その証拠に、普段は騒がしくP Cに喋りかけてくる二人が今は顔を真っ赤にしてこちらと目を合わそうとせず、ずっとヒソヒソと内緒話をしている。

「……いや～いい画が撮れましたね～」

カップルが見えなくなった頃、屋上へ出る階段の最上部……つまり天井から声がした。

「……よいしょっとっ」

綺麗な着地で塔屋の上から突如 P C 達の前に現れたのは、スクープの鬼“大里 友理奈”だった。

「話は全て聞かせていただきました！随分と厄介なことをしているようですねえ。いや、クラスメイトを疑ってかかるとは……さぞ心が痛むことでしょう……」

「そこでどうでしょうか？ 私と協力してこの事件あっという間に解決しちゃいませんか？」

P：何故その事を知っているのか？ or そんな話は知らないよ？（しらばっくれる）

友理奈「おや？ ……そんな事を言うということは……心を読むという機械は壊れちゃったんですかね？ それともやっぱり嘘でしたか？」

そう言いながら友理奈は千代子に近づくと、徐に襟首から小型の盗聴器を取り外した。自分に盗聴器が仕掛けられていた事に気づいた千代子は、助けを求めるような涙目を P 2 に向けた。

彼女はどうやらあることを知っているようだ。

P：友理奈の心を読む

「どうも最近クラスの様子がおかしいから部員に言って探らせてある。その中で一番派手に動いている人の名前と所在地が今、友理奈のスマホに部員からメールとして届いている。彼女自身はまだ確認していない。（探索者達との取引に使える情報だから確認しなかった）」

「自分（友理奈）が追っている謎は探索者の追っている事件と恐らく関係がある」

「こんなことを知っているのは詩織と探索者の会話を盗聴器で聞いたからだ」

「心を読めるというのが本当だとしたら非常に利用価値がある。是非手を組んで起きたい」

心を読むと大里が察したかのように以下を言う。

「……信じがたいですが……心を読むというのは本当みたいです……さて、どうでしょう？ 私と一緒に来て、事件を解決させませんか？ 情報……欲しいですよ？」

（KP 情報） —————

友理奈を力で押さえつけスマホを奪うことは可能だが、スマホは暗証番号によりロックされており直ぐに見ることはできない上、友理奈は怯えて逃げるようになってしまい情報を得る

機会は永遠に失われてしまう。

芽衣の所にスマホを持っていけばロックの解除はしてくれるが、その時間では南は既に殺害されている。→人類全滅 END

P：大里友理奈と協力する

協力するというならば、彼女は自分のスマホを探索者たちにも見せてくれる。

そこには、担任の先生“今井川 南”“3番地のファミレス”とだけ表示されていた。

「ほほお……彼女でしたか……次は逃がしませんよ……」

友理奈はそう言いながら部員へ返信メールを送っている。

現時刻は初夏の夕日が沈んできた頃だ。

→ストーリー“今井川 南を追跡”へ

●今井川 南を追跡

「はい、どうもご苦労様でした」

友理奈はファミレスで予め席を取っておいてくれた後輩部員に礼を言った。

ここは名桜町3番地にあるファミリーレストランだ。

尾行目標である先生“今井川 南”の席はPC達から見やすく、逆に先生からは見つかりづらい絶好の位置にある。

彼女はどうやら一人でファミレスに来ているようだ……。

P：何が怪しいのか友理奈に聞いてみる。

「怪しいと感じたのは2週間ほど前からですね。まあ前提として、私は周りの人が普段どのように過ごしているのか常に把握しているのですよ」

さらりと恐ろしいことを言ってくるが、彼女は気にせず続ける。

「……その動きに突然変化が現れたのです。おかしいですよね？ 習慣が一日もたたずに変わるのですよ？ それも何人も。ある人は普段行かないような場所に行き、ある人は普段しないようなことをする……学校での様子は全く変わらないのに……。その変化が一番大きかったのがあの人の様です」

「ちなみに二週間前の彼女なら、今頃は自分の受け持っていない部活にまで顔を出して生徒の見送りに精を出している頃ですね」

「……恥ずかしい話、私達（新聞部）はいままで何度も撒かれていましてねえ……私の包囲網を潜り抜けるとか……超人ですかって話ですよ……全く」

「さて？ どうでしょうか？ 彼女ほど怪しい人はいないんじゃないですか？ 彼女の心を読んでみてくださいよ。……スパイが担任の先生……というのは盲点だったんじゃないですか？」

P：南の心を読む

なんと南の心は読むことができない。デウスエクスマキナは南を犯人では無いと断定したようだ。

そんなことを話していると、不意に南が立ち上がり店を出ていく。

P：跡をつける。

現時刻は7時くらいといったところ。

ここで、さらに尾行を続けるなら「もう夜遅いし、調べたいこともあるから帰るわ」と、詩織が離脱する。→詩織は普通に家に帰る。

南をつけていくと、駅前の立体駐車場に入っていく。

●遭遇

立体駐車場の三階に来た。辺りは薄暗く、周囲には誰もいない。

南は何かをキョロキョロと探しているようだ。

そのまま不意にこちらを見る、そのときだった。彼女の表情が急変したのだ。

「変わっ……!! 危ない!!」

普段の姿からは想像もつかないような大声で彼女は叫んだ。

そしてPC達は気づくだろう。自分たちの後ろにはいままで見たことのないような化け物
がいることに……

(KP情報) _____

古のものの容姿説明 (クトゥルフ神話 TRPG p.168)

SANチェック 0/1d6

先生の声を聞いていたなら不意打ち攻撃を回避が可能

攻撃の後は戦闘にはならずそのまま次のイベントへ

「そこまでです!! 引いてください!!」

PC達の突然のピンチにヘンテコな拳銃を持って駆けつけたのは“保志野 芽衣”だった。

彼女の武器に気づいたのだろうか、その化け物は何か不思議な言語を言うとスッとその場
から消え去ってしまった。後に残ったのはPC達、恵、千代子、友理奈、南、芽衣となる。

息を整えながら、芽衣が口を開く。

「み……皆さん……無事だったみたいで……何よりです……」

「今やっと……この銃が完成したので……、い、急いでここに……」

南がそれに続く。

「……一体なんだったの？ いまのは……？」

全員が困惑状態となるだろう。

ここから先はNPCが多いので、箇条書きで説明する。ロールプレイはして構わない。

- ・今の化け物こそが、“古のもの”に違いないと芽衣は言う。
- ・芽衣曰く、“丸見え君一号”(読心装置)はGPSにもなっている。
- ・南先生は出かける予定があって、原付を取りに来た。
- ・友理奈は冷静を装っているが、現在絶賛困惑中。
- ・先生にはショゴスの事は話さないほうがいいだろうと、芽衣が言う。
→芽衣が、あれは変質者だったのだと先生を誤魔化す。

(K P 情報) —————

南の言葉は嘘である。P C 達が心理学を使用し調べるならバレる危険がある。

(南は単身で古のものの行動を制限させに来ていた。(恵のループ行動))

南の嘘を見破り言及しても南は泣くほど焦って言い訳するだけで、真意を教えてくれることは無い。→デウスエクスマキナにスパイでは無いと判断されているから、今回の事とは無関係だろうと芽衣が言う。

しばらくロールプレイした後、今日はもう帰るなさいということになる。

帰り際に、恵に歌を頼めばS A N 回復 (一日に一回のみ 1 d 2 回復) できる。

●三日目、新たな容疑者

昨日芽衣が完成させた銃は“熱々君2号”といい、熱光線を発射する銃のようだ。この銃は芽衣が所持し続けることになる。(KP) 今回の捜査は武器を所有した芽衣がいるので、PC達は強く出ても大丈夫であろうことを伝える。

・スパイ容疑者にPC達は行き詰まるかもしれない。そうなれば下記の推理を恵から言わせる。

「……あのね……P1さん……容疑者の中で、一人だけ……昨日のあの場面に遭遇していない人がいるの……それは、詩織さん……。あんまり疑いたくないんだけど、やっぱり直前に帰っちゃったことに違和感があって……どうかな？」

・昼休みの探索

詩織は相変わらず自分の席で本を読んでいる。心を読むと、その本の内容は“ショゴスについての文献”のようだ……。

彼女に話しかけると、以下のような会話になる。

「ああ、貴方達……どうだったの？ 結局スパイは見つかった？」

P：事情を話す。

「……なんてこと……私もその場にいるべきだったわ……なんて迂闊……」

自分が疑われていることなど全く考えず、オカルトマニア魂を燃やす彼女。

「むう……まあいいわ。いろいろ文献を見つけておいたから……放課後に私の部活にくるといいわ……」

そうすると彼女はまた本に向き直って読み始める。

放課後まで特に何も無く進む

他のNPCとロールプレイしてもかまわない。

・放課後

この名桜高校には旧校舎がある。耐震工事はされているが、木造で、雨漏りなどもしていて、授業では使われていない。いくなれば部活専用の校舎であろうか。

この校舎の二階の一番奥の部屋……目立たずひっそりと佇むオカルト研究部に、今PC達は来ていた。

部屋は暗幕が所々に貼られており薄暗くなっている。そのためかそこら中にある謎のオブジェが余計不気味に演出されていた。彼女……詩織曰く、雰囲気的大事であるらしい。

そして部室中央にあるテーブルに、彼女が探してきたのであろう謎の本が山積みになっていた。

探索：図書館 or 目星-30 で必要な文献を見つけることができる。

(K P 情報) _____

見つけることに失敗した場合でも詩織が見つけてくれる。

(文献抜粋) _____

情報：ショゴスの逸話

1958 年、米国カリフォルニア州サンディエゴのとある場所で奇妙な死体が発見される。それはまるで硫酸でもかけられたかのように、半分溶けてなくなっている人の死体だった。

この事件を皮切りに、次々と人がいなくなり奇妙な死体として発見されるようになる。

そしてどの死体も共通していることは、体の一部が無くなっているということだった。これにより、おそらくなんらかの化け物に食べられているのだろうという噂になり、人々は拳銃などの武器の他、毒物なども携帯するようになった。

しかし、それでも事件は収まらず犠牲者が 20 人にも及ぼうとした頃、たった一人化け物に襲われて生き延びたという人物が現れた。

彼曰く不思議な声が下水から聞こえて、近づいてみたところ黒い粘液のようなものが体に巻き付き引きずり込まれそうになったのだという。

その下水道を武装警察が捜索に行ったが、化け物と交戦しているという無線を最後に、誰も帰っては来なかった。

痺れを切らした警察は下水道の外側から火炎放射で中を焼き尽くした。

その後下水道を調べてみると、大量の人骨を含む黒い泥のようなものが発見された。この泥が化け物であったのだろう。それ以降、死体は発見されなくなり事件は解決したのだ。

この文章を読むと、詩織が話し出す。

「……これが本当だとしたら随分な化け物ね……銃も毒も効かないなんて……」

(K P 情報) _____

→これはショゴスがお腹など壊さないということを暗示する情報です。

P C 達が気づかなければ、ここで友理奈を登場させる。

「……お困りの様ですね皆さん？」

ガラリと 2 階の窓を開けて入ってきたのは、友理奈だった。窓際にいた千代子が驚きの声を上げるが、そんなものは意にも介さず話を続ける。

「なるほどなるほど……ショゴスは随分高い耐性を持った化け物の様ですねえ……」

「では……ショゴスとして怪しい人物が浮かびましたよ？ ……誰だと思えます？」

「……皆さんは一か月と少し前にあった食中毒事件を覚えていますか？ クラス内の女子ほ

ぼ全員がトイレに駆け込む事態となったあの事件です」

「その事件で、被害にあわなかった人もいます。その人達の中には、実は私と詩織さんも入っているんですよ……つまり、あなた方が見つけた“容疑者”と一致するんです」

「さて……ここまで話したらわかりますかね？」

「そうです……“池上 千穂”。彼女も食中毒にはなっていません！……購買を利用していた筈なのに……」

「彼女をもう一度調べてみる必要があるんじゃないですか？」

ちなみに、食中毒事件当日に友理奈と詩織は購買を利用していなかったことを話してくれる。ここで、夜が更けてきたので帰ろうということになる。

●帰り道、静かな二人

P C達は夜が更けた帰り道を歩くことになる。

「ねえ、P 2 っち……千穂ちゃんが、ショゴスだと思う？」

ずっと静かだった千代子が口を開く。

「あれから千穂ちゃんさ……大谷君といるときすごい幸せそうなんだよね……」

「あの笑顔も嘘なのかなあ？ ……嘘であんな笑顔になるかなあ？」

「なんで……こんなことになっちゃったんだろうね……人を救うためにやってるのに……ど
んどん気持ちが沈んでくるよ……」

「ねえ……どう思う？ P 2 っち……」

→この質問に対し、P 2 が「大丈夫だ」「説得してみせる」「嘘なんかじゃないさ」などと答
えたなら、以下へ続く。

「……フフフ……あはははは!! なにマジになってるのさ～!! P 2 っちてばカッコイ～～あ
はははは!!」

突然笑ったかと思うと、P 2 を小馬鹿にして駆けていく千代子。

千代子と同じくしょげていた恵が、今の会話で元気を取り戻しP 1 へ微笑みを見せる。
そして彼女は歌いだす。いつもよりももっと空に響くように美しく。→SAN回復 1 d 2
澄んだ歌声が夜空に消えるころ改めて恵がP 1 話しかける。

「……P 1 さん……私が歌を歌い始めた理由は……貴方にあるのです……」

「……小学生のあの頃……私が自分はなんの為に居るのか分からなくなっていた頃です……
不意に口ずさんだ歌を、貴方は手放しで褒めてくれたんです……褒められるなんて生まれて
初めての経験でした」

「私は、貴方に褒めてもらえた歌があるからここまで来ることができました」

「歌は私の全てになった……P 1 さん、貴方の言葉には人を大きく変えることができる力が
あるんです。……きっと……貴方なら……いえ、貴方に集まった私たちなら……きっと何と
かできると思うんです……！」

恵はP 1 に強くそう言い切った。

そして、恵とP 1 から少し離れた位置まで走っていた千代子が、不意にP 2 へ向き直って
聞こえないほどの声で言った。

「本当に……かっこいいんだから……」

●四日目、容疑者千穂

・昼休みの相談

「さて、突然ですが！」

本当に唐突に芽衣から話しかけられる。

「昨日話した通り、本当に千穂さんがショゴスなのかどうなのか確かめるなら、やはり心を読むのが一番だと思うのです」

「ただ、こんなところで核心に触れて暴走でもされてはたまりません！……ならば、彼女を人気のない所に呼び出す必要があります」

「そこでどうでしょう、”私の親睦会も含めて家でお勉強会をする”というのは？」

「彼女を騙す形になってしまいますが、これが一番周りに被害を出さずに済むのではないかと……」

→今回は芽衣が熱線銃“熱々君2号”を所有しているので、周りに人さえいなければ被害を出さずにショゴスを制止させることができる。

→もっと良い作戦があるならそちらでもよい

上記のような作戦を立てているといつの間にかP C達の後ろから詩織が話しかけてくる。

「……そんなに驚かないでよ……まあいいけど」

「私……新しい情報を仕入れたわ……まあ新しい情報というよりは、例の“ショゴスの逸話”の補遺なのだけれど……」

(補遺)

“ショゴスの逸話・補遺”

件の事件の後、ある人物が行方不明になっていることが分かった。それは、現場近くのバーで働いていた従業員である。彼女は美人で献身的であり、バーでも人気の高い女性だったようだ。

そして興味深いことに、化け物に襲われた半数の人が、そのバーの隠し会員だったようだ。

「……さて、わかるかしら？ ……これってショゴスは人を魅了し味方につけるという手法も知っているということよね？ ……つまり、千穂さんも怪しいのだけれど、その彼……大谷君も怪しいという事よ」

「さらに言うなら……洗脳とかもされているかもしれないわね……失礼かしら？」

「そして、奴らは私たちにはわからない方法で情報を伝達できるらしいじゃない。だったら、

もし千穂さんだけを呼び出してみてもショゴスじゃなかったら、大谷君……つまり本物の方に私たちがしていることがばれてしまうわ」

「だから、呼ぶなら二人同時がいいと思うわね」

→上記の情報を元に、P Cに作戦を決めて貰うことにする。

(K P 情報) **重要**—————

- ・できるだけ二人（詩織・翔太）を呼んで真実を話す
- ・暴れられても周りに人がいなければ、熱線銃で何とかできる
- ・家は千代子と詩織の家以外なら誰の家でもよい、旧校舎のオカ研や空き教室でも可

→千代子と詩織は演出面で問題がある。恵の家は賃貸で一人暮らしである。

●放課後“作戦開始”

(K P) これは芽衣が言った作戦をそのまま使ったものとして話を進める。

他の作戦を考えたのなら、そちらにアドリブで合わせる。

放課後に入っすぐ、恵と千代子と芽衣が千穂と大谷を勉強会に誘う。

二人は二つ返事で来てくれることになる。

・勉強会

ここは〇〇の家である。

全員が集まり、ついに真偽を確認するときになった。

ここから先はP Cがどのように話をするかに任せる。

(K P 情報) —————

一応下に千穂の反応を書く。

「あれ？ ……なんか皆勉強道具持ってきてないようなー……？」

P : スパイの事を話す

「……どういうこと～？」

「え……っとー……つまり……？」

「え……誰かがショゴスっていう怪物かもしれないの……？」

「そんな……え……それって誰なの～……？」

彼女は理解と納得に非常に時間がかかっている。

・真実を話し、心を読む

千穂、大谷両名ともショゴスでは無いであろうことがわかる。

彼らの心の中は「信じられない」と「嘘をついているようには見えない」「ホントだったらどうしよう」で埋まっているようだ。

芽衣がP 1へ結果はどうだったかと耳打ちしてくる

P : 二人はどうやら違ったようだと伝える。

「……そうでしたか……ひとまずは安心でしょうか……？」

「お二人には疑ってしまったことを謝らなければなりませんね……」

そう言いながら芽衣は隠して持っていた熱線銃を鞆にしまった。

・強襲

この結果に探索者たちと恵・千代子が安堵した瞬間だった。

「う……！」

突然口を押さえ、俯いてしまう千穂。それを見て翔太が心配そうに彼女の背中をさする。

「どうしたんだ突然……大丈夫か、千穂……？」

そう言って翔太が彼女の顔を覗き込んだ。

「な……」

翔太が驚きの声を上げる。千穂がゆっくりと顔を上げると彼が驚いた理由が分かった。彼女はあまりにも似合わない悲愴な表情で、大粒の涙を流して泣いていたからだ。

「なんで……そんな……」

全員が驚く中、突然千穂が動いた。

「ごめん……なさい……」

そう言うと、彼女はP 1を強く突き飛ばした。

何が起きているのか理解しないままにP 1は押されてヨロヨロと後退するだろう。

次の瞬間だった。

全員の視界が真っ赤に染まったのだ。それとほぼ同時にぐしゃぐしゃと水っぽい何か落ちるような音が聞こえ、辺りに異臭が漂った。何が起きたのか瞼についた赤い何かを拭き取って目を開いた時、君たちは理解する。

突如空間から現れた鋭利な触手のようなものに、千穂が刺し貫かれていたのだ。触手はグネグネとうねると、千穂の腹部をさらに大きく抉りながら彼女を壁へ吹き飛ばした。

「あ……や……いやああああああああああ!!」

恵と千代子の絶叫が響く。

その声に反応したかのように、触手はそのまま千代子を掴んだ。

「いや！いやいや!! いやああああああ!!」

振りほどこうと必死にもがく千代子が、急に大人しくなる。

空間からその巨大な本体が現れたからだ。“古のもの”だと芽衣は言っていた。

前回現れて逃げた“古のもの”がまた空間を空けて強襲してきたのだ。

「くっ……!!」

ようやく状況を飲み込んだ芽衣が熱線銃を取り出し、古のものに向ける。

(K P)

この時、＜目星＞を振ることができる。

成功：翔太が何かに気づき驚いたような表情を見せている。

(K P 情報) —————

この時、“古のもの”が千代子に「思い出させてやる」という信号を送っている。

近くにいた翔太はこれが解ってしまう。

「だ……誰か……!! 千代子さんを助けられませんか!?!」

「彼女が居ては撃てません!! P 2 さん!!」

芽衣が叫ぶ。

しかし、その言葉を聞いた千代子も同じく叫んだ。

「だ……ダメ!! 来ないで!! 殺される!!」

(K P 情報) —————

- ・ P 2 が気にせず助けに行ってくれることを予想
 - ・ P C が死なない程度に戦わせるのも可
-

P 2 が千代子を手助けしようと“古のもの”に立ち向かう。しかし、その刹那だった。

ズルリと、まるで這いずる蛇のように触手が千代子の鳩尾に入り込んだ。「ご……ぼ……」と彼女は声にならない悲鳴を上げた。

それを見た P 2 が必死となって彼女を手助けに向かうと、“古のもの”は千代子から触手を引き抜き、用済みとばかりに P 2 に投げつけた。力なくまるで人形のように飛んできた千代子に視界が奪われた一瞬で、“古のもの”は再び空間の中へ消えてしまうのだった。

後に残ったのは、愕然とする P C 達と、無残な姿となった千穂と千代子だった。

以下ロールプレイ

- ・ (K P) 凄惨な状況を演出する
- ・ 救急車を呼ぶ
- ・ 千穂も千代子も心停止状態
- ・ 恵と翔太はかなり取り乱している

● 真実

○ その後の展開は以下になると予想される

程なくして救急車が着き、二人は病院に送られることになる。P C達もついていこう。

2つの緊急手術が行われるが、P C達（特にP 2）は千代子の手術室前で待つことになるだろう。翔太は千穂の手術室に向かうので、ここで彼とは別れることになる。

千代子の手術を待っている最中、不意に恵が話し始める。

「……ずっと……考えていたんです……」

「クラス内という狭い中に必ずいるはずのショゴス……こちらは心が読めるはずなのに見つからないなんておかしい、と……」

「自分の事を全く考えずに、生活なんてできるのでしょうか……？」

「これって……もしかして……自分でも気づいていない……」

「……つまり」

「ショゴスはショゴスであることに無自覚なんじゃないでしょうか……？」

恵が話し終わった直後だった。突然手術室の扉が開き、執刀していた医者が恐慌として出てきた。彼は震える手でゆっくりとマスクを外すと、こう言った。

「患者が……消えた……」

(K P 情報) _____

→ P C達が千代子の家へ向かうよう誘導する。

(自分の正体に気づいた千代子は混乱し、液状になって逃亡した)

翔太は何を言っても千穂の手術室前から動こうとはしない。

・ ショゴスの正体

P C達はそれからすぐに千代子の家へ向かった。彼女の家は二階建ての一軒家であり、家族三人で暮らしている筈だ。しかしいま目の前の彼女の家は、灯りが消えてシンと静まり返っていた。

鍵が掛かっておらず大開になった玄関を通り、P C達は中へ進む。

そろそろリビングに出るだろうか、というところで囁くような声が聞こえてくる。

「違う……違う……違う……」

その声は聞きなれたP 2ならすぐにわかるだろう。紛れもない千代子の声だった。彼女の無事を確認するため、P C達はリビングへ急ぐだろう。

そして、リビングに到着したP C達は見てしまうのだ。千代子であつたらうそれを、その怪物を……。

その体は原形質の小胞でできた不定形の塊で、全体から淡く光を放っている。天井まで達しようという巨体の先端部には元々千代子として動いていたであろう部分が、半分骨格となつて剥き出していた。

その先端部についている千代子のようなものが、君たちに気づき振り返る。

「う……あ……」

「み……見ないで!! お願い!! 見ないでえええ!!」

半狂乱になりながら頭を抱えうずくまるショゴス、彼女にはまだ理性が残っているのだろうか？

SANチェック 1 d 6/1 d 20

[イラスト<千代子>開示](#)

→彼女を何とかなだめる必要がある。ロールプレイと精神分析で落ち着かせる。

(KP情報) _____

P2のロールプレイ次第で精神分析に大きな補正をかけてよい。

また、プレイヤーが失敗しても恵が精神分析をしてくれる。(確定成功)

落ち着かせると、ようやくぼつりぼつりと話をしてくれる。

「……私の……私がいままで自分のものだと思っていたもの……全部……全部……嘘だったの」

「お父さんも、お母さんも、私自身も……全部……私が奪ったモノだったの……」

「アイツに……刺されて……その夢が……全部……覚めた……覚めちゃったんだ……」

「あ、あああ、ああああ!! いやだ!! いやだよ!! P2っち!! 助けてよ!!」

「私が……ショゴス……っつ!! 猪口千代子じゃない……猪口千代子は死んで……私はその子の記憶を盗んだ……化け物……」

「ごめんなさい……ごめんなさい……ごめんなさい……」

→とりあえずロールプレイで今後どうするか決める。

- ・千代子は落ち着いてくれば人間の姿に戻ることができる。
- ・彼女は理性を失っておらず、“古のもの”への攻撃に協力してくれる。
- ・彼女は、元々存在していた猪口家の人間を殺し、記憶を引き継いで成り代わったショゴスである。

千代子がようやく落ち着いて話が進み、今後の動きが固まった頃、PC達のスマホに着信がくる。それは大谷翔太からだった。

「おい！皆！いったいどこにいるんだ？ 病院には居なくなってるし……探したんだぞ？」

「猪口さんはどうなったんだ？ 無事なのか!？」

(KP 情報) _____

ここではなるべく千代子がショゴスだったことは伏せておいた方がいいだろうと NPC (芽衣など) から PC に教える。

「そうか……無事だったんだな……」

「まあ聞いてくれ！千穂も……千穂も一命を取り留めたんだ！で、ついさっき一瞬だけ意識が戻ってさ……お前らに渡してくれって、なんか変なもの寄こしてきてよ……あの化け物から奪ったものらしいんだけど……あいつ許せねえ……俺も協力するし、これも渡したいからよ!! すぐ会えないか？」

→会う場所がすぐ決まらないのなら、大谷から名桜中央公園で待ち合わせようと言われる。

芽衣が翔太の言った“変なもの”について考察する。

「“古のもの”が持っていたもの、ですか……もしかしたら通信装置だったりしますかね……？ だとしたらものすごい収穫です！千代子さんの通信を逆探知するより遥かに早く正確に、奴らの本隊の位置を暴くことができますよ!!」

(KP 重要情報) _____

この“変なもの”とは、翔太が千代子をおびき出す為の嘘である。

電話越しなので、この嘘は見抜けない。

千穂は既に死亡しており彼女が殺された原因は、スパイとして動いていた千代子にあると翔太は判断している。彼は千代子を殺す気である。

千代子がショゴスであると翔太が知っているのは、“古のもの”が千代子に言った言葉、「思い出させてやろう」というのを彼も聞いてしまったからである。

翔太は救急車に乗り込んだ時、芽衣のカバンから“熱線銃”を盗んでいる。

彼に合わずに芽衣の家を目指そうとすると、その後現れる“古のもの”に熱線銃無しで挑まなければならなくなる。→芽衣は足止めできず、全員で古のものと戦闘する。古のものの能力値はルールブックにあるものの最高数値となる。

→夜の公園へ

●誰もいない夜の名桜中央公園

P C達は翔太に呼び出され名桜中央公園にやってきた。

夜はすっかりと更けており、この公園なら綺麗な星空が見える時間帯だが、曇っているのか星は見えなかった。

翔太はまだついていないのだろうか？ P C達がそう思い、辺りを探そうとした瞬間だった。轟音と同時に、凄まじい爆風と熱量をP C達は感じるようになる。

それは、暗闇から直線に伸びてきた閃光がP C達の間をすり抜け……後ろにいた千代子に直撃したことを理解させるものだった。

「う……うあああああ!!」

千代子の身体は半分に溶け、彼女は上半身のみで苦しさにのたうち回っている。

「まだ、死なないのか……化け物が……」

暗闇に潜んでいた人物が姿を現す。その手には“熱線銃”を持ち、もう一度千代子を撃とうと狙いを定めている。

彼はP C達をここへ呼んだ大谷翔太その人だった。

「な……！ あの銃は……!？」

芽衣が驚きながら自分のカバンを確認する。

「無い……い、いつのまに……!？」

P：P C達は千代子を守ろうと立ちはだかるだろう。

それを見た翔太は煩わしそうに言う。

「……なんで邪魔するんだ？ ……そいつが全部悪い化け物なんだろう？」

「聞いたぞ……あの化け物が千穂を刺した時、その女に“思い出させてやる”と言ったことを……!!」

「何を思い出すんだ？ 人に化ける方法か？ 人を騙す方法か？ ……人の……殺し方か？」

「邪魔をするならお前ら皆……殺してやるよ……!! それで人類は救われるんだろ？」

→中間ボス“大谷翔太”との戦闘へ

●大谷翔太との殺し合い

彼のステータスは以下である。

・”恨みの行方” 大谷翔太

STR11 CON11 DEX13 APP12 POW10 SIZ12 INT12

技能：回避 40 % 隠れる 50 % 隠す 50 % 熱線銃 25 %

熱線：2d+6

耐久：12

- ・基本的に普通の男子高校生だが、熱線銃を所有している。
- ・PC達のいう事に聞く耳は持たず、全員殺してでも千代子を殺害しようとする。
- ・恵、千代子、芽衣は戦闘をすることはできない。
- ・翔太が気絶もしくは死亡することで戦闘は終了する。
- ・戦闘終了後、熱線銃は芽衣が回収する。

●理不尽な世界

「ごめんなさい……ごめんなさい……ごめんなさい……」

ようやく再生が終わった千代子は、それでもなお謝り続けている。
それは一体誰に向かっての謝罪なのか、おそらく彼女本人も分かってはいないのだろう。

「……急ぎましょう！ ……全部終わらせるんです!!」

意を決したように芽衣が言う。
そうだ、逆探知により“古のもの”を特定し倒してしまえば、この悪夢は終わる筈なのだ。
P C達は星の见えない暗い夜を、芽衣の家目指して進む。

「止まってください！」

息を切らせながらP C達は走っていたが、家まであと少しというところで先陣の芽衣が全員を制止させる。

「ついにここまで来ましたか……」

制止の理由はすぐに明らかになった……前方の空間が歪に歪んでいるのだ。この歪みには覚えがあった。あの化け物“古のもの”が消えたり現れたりするとき発現するものだ。

「……P 1 さん！ 聞いてください！ ……対宇宙兵器は特異点である貴方が居なければ起動すらできません！ ……行って、千代子さんと同時に“デウスエクスマキナ”に触れてください！ それがスイッチになります！」

「P 2 さん！ ……トリガーを引くのは貴方に任せます！ ……貴方が全ての命運を決めてください！」

「恵さん！ ……見届けてあげてください！ ……この世界がどうなるのかを!!」

芽衣はそう言いながら“熱々君2号”を取り出す。

「大丈夫です！ 私は……まだ死ねませんので!!」

「早く行ってください！ 皆さん！」

→芽衣はここで“古のもの”を食い止める。

P C達は対宇宙兵器起動に必要な為、残るわけには行かない。

●決断

芽衣の家へたどり着いたPC達は、二階のあの機械へ走る。

P1は一目散に機械に触れるだろう……しかし、千代子は機械に触れようと伸ばした手を戻してしまう。

(KP情報) _____

PCは「どうしたんだ!? 早くしないと!!」と急かすだろう。

PC達が千代子へ何らかの声かけをしたら次へ進む

決意したかのように一つ頷くと、彼女も機械に触れた。次の瞬間ショゴスである彼女の周りを取り巻くように、電子的な数字の羅列が浮かび上がった。家全体が激しく揺れ、どこかに動いているかのような浮遊感である。揺れが収まると今度はゆっくりと天井が開いていく、そこには本来見える筈の夜空は見え、先ほどまでは影もなかった巨大な砲身が姿を現していた。

P2の目の前にボタンがせり上がってきており、これがトリガーなのだろうという事が分かる。

P：P2が押すか押さないか決める。

千代子に、なぜ先ほど躊躇したのか尋ねることもできる。

P：千代子に躊躇した理由を聞く。

気づくと彼女は小刻みに震えていた。

「……だってさ……P2っち……優しいから……」

俯いていた顔を上げると、彼女は涙を流していた。

「言っちゃったら……押さなくなっちゃうかと思って……さ……」

「う……うっ……うう……ひぐ……」

「“古のもの”達が全滅したら……私も一緒に消えちゃうんだ……!!」

彼女は嗚咽を堪え切れなくなり、涙がさらに溢れてくる。

「やだ……やだよ……もっと皆と一緒に居たかった……」

「……でも、しょうがないよね……私……裏切り者の化け物だったし……」

「刺されてから頭の中で“人を殺せ”“人を殺せ”ってずっと聞こえるの……おかしくなりそう……」

「だから……ね……私が死なないと、皆が死んじゃうから……お願い……」

(K P)

P 2 にロールプレイをさせ、ボタンを押すか否かを決めさせる。
押さなければ、**人類全滅**エンド

(K P 情報) —————

体験版はここまで。

製品版はこの後の展開。また分岐ルートも加え残り 39 ページの作品となっております。

是非製品版で物語の続きをお楽しみ下さいませ！
